



平成十二年四月十二日、校舎改修竣工披露式が、改修なった講義棟エントランスホール前において学長、図書館長、事務局長、学生部長、施設課長、教務課長、学生自治会代表その他多数の教職員の出席のもとに、しめやかに行われた。

当日は好天に恵まれ、青空におう満開の桜花は改修なった講義棟のお披露目を祝うかのようであった。

この改修工事は平成十一年十二月から十二年三月にかけて行なわれ、後期授業と入試センタ



により、幸いにも大きな混乱もなく、無事に終了することとなった。このことは、改修工事の設計の責任者である施設課と授業、入試の実施に責任を負う教務課及び入学主幹との間の連携と協力の賜物であり、また、不便さをしのぎながらも授業、入試業務等を遂



一試験、個別学力検査等の実施期間中のことであり、いくつかの不都合が予想されたが、校舎改修検討プロジェクト委員会を設置することにより、工事の実施と授業、入試等の実施との調整を計ること

行した全学の教職員、不平を言わず仮の教室での勉学にいそしんだ学生達の協力に負うものが多い。今回の講義棟改修工事の主な設計理念は、次のようである。

一、建築面積九五五㎡、延べ面積二七七二㎡の耐震補強（耐震指標〇・二四から〇・七への改修）、エレベーター、スロープの設置によるバリアフリー化、内装改修による不燃化等による安全性の向上。

二、照明器具の全面更新、熱源を都市ガスとした環境と省エネを配慮した空調設備の完備、遮音性のよい間仕切りへの改修、学生の憩いの空間としてラウンジの設置、講義室の浮遊粉塵抑制を目的とした黒板から白板への変更、中庭へのウッドデッキ設置、インターロッキングブロック舗装、外灯の整備等の快適環境の創造。

三、二つの大型教室へのパソコン対応型固定連結机と各机への情報端末及び電源コンセントの設置、エントランスホールの整備と電子掲示板の設置等マルチメディアへの対応。

以上のような理念による改修工事は、ほぼその目的を達成したと言えるであろう。改修なった講義棟へ足を踏み入れた卒業生がいみじくも次のように語っている。「新入生は幸せですね。」今年度の授業を始めた多くの教官が率直に感想を述べている。「教室がきれいになって、我々も、学生もお互いに授業がやり易くなりました。」講義棟の改修工事が本学の校舎改修の第一段であり、また、全般的な教育改善の一步であることを望んで止まない。

